

事例 3

国見の里 ～渡り廊下による防火区画と燃えしろ設計～

●法人名：社会福祉法人厚慈会／所在地：福島県伊達郡国見町／開設年月：2013年9月

●外観



南側からエントランスを見る



北側から施設全体を見る



事業概要

- 特別養護老人ホーム：定員90人
- ショートステイ：定員10人
- デイサービス：定員25人



補助

- 平成24年度  
サステナブル建築物等先導事業



建築概要

階数	平屋
地域制限	その他の地域
防耐火種別	準耐火建築物(45分耐火)
敷地面積	20,416.27㎡
建築面積	5,679.30㎡
延床面積	5,519.80㎡
構造種別	木造(軸組工法)

設計	株式会社レーモンド設計事務所
施工	株式会社安藤組
工事工期	2013年2月～2013年7月

国見の里 ～渡り廊下による防火区画と燃えしろ設計～



居住棟の廊下から見る交流スペース外観



居住棟の中庭



メインステーション前の廊下



田園に接して建つ北側の外観







ユニット化された居室

### 単純なプランニングによる コスト削減と工期短縮

居住棟は、住宅に使用される一般的な木材を被覆した準耐火構造となっています。標準化されたユニットを連結した単純なプランとすることにより、建設コストの削減と工期短縮を図っています。

トイレの壁は、ユニットによって黄緑、茶、淡い赤など色分けされ、入居者の目印となっています。



防火戸を設けた鉄筋コンクリート造の渡り廊下

### 鉄筋コンクリート造の渡り廊下による分棟化

本施設は、5,000㎡を超える大規模木造平屋建築物で、面積制限がかかるため、メインを木造としつつ、鉄筋コンクリート造の渡り廊下によって分棟化しています。

各部の床面積の合計を3,000㎡以内とすることで、主要構造部を耐火構造とせず建設が可能となっています(法21条2項2号)。



交流スペース(機能回復訓練室)の躯体は燃えしろ設計としている



エントランスホール

### 燃えしろ設計による躯体の現し

交流ホールは、定期演奏会に使われたり、災害時の福祉避難所として町から指定されています。地域に開かれた施設となっていて、音響についても好評を得ています。

大断面製材は乾燥時間がかかるため、その部分の建て方工事を工程の最後にするなど工夫を要しました。

### 施設概要

町内で初めての特別養護老人ホームとして計画された本施設は、周囲を山に囲まれた丘陵地帯に建っています。居住棟は、1ユニット10名の生活単位10組、計100床と共同生活室で構成されています。

「地産地消」を施設全体のコンセプトとして、使用した木材の全材積1,073㎡のおよそ70%程度に県産材を採用しています。また、地域交流スペースの活用など地域に根差した施設となっています。



メインステーション

### 受付

メインステーションは、交流スペースと廊下に面しています。木製の棚や机が設けられ、温かみのある色合いが安心感を生んでいます。



共同生活室

### 共同生活室

スプリンクラー設備を設けることで、ユニットの共同生活室では力強い大きな木の梁を見ることができます。



テーブル・ベンチ

### 家具

木景観形成促進事業（福島県）の一環として、県産材を使用したテーブルとベンチが設置されています。



中庭に面したテラス

### テラス

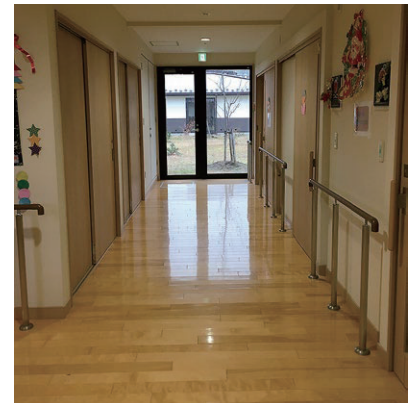
交流スペースの外は中庭に臨む大きなテラスが設けられていて、木材がふんだんに使用されています。



エントランス

### エントランス

内装だけでなく入口の庇まで木質化することで、利用者に加え、見学者や地域の方々も木の空間を感じることができます。



廊下

### 床

廊下は床、巾木、建具を木質化しています。床から立ち上がる形の手すりを設置することで、壁が傷つくことを防いでいます。



## 運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

・木造は住宅と同様の住み慣れた造りであるため、第2の住まいとして選ばれていて、入居者だけでなく、そのご家族からも評判がいい。また、新規スタッフを募集する際には、木造の施設の写真はとても効果的で、職員の確保にも役立っています。[運営者]

・乾燥によるひび割れを見て心配される見学者もいますが、この程度の割れは構造的に問題ないことを伝えていきます。建築主と施工者が正しい情報を共有し、木造に対する理解を拡げることが重要です。[運営者]

・床が柔らかく、足腰が疲れにくいと喜ばれています。[スタッフ]



事例4

あたり前の暮らしサポートセンター ～利用者の自立支援～

●法人名：社会福祉法人望月悠玄福祉会／所在地：長野県佐久市／開設年月：2016年5月

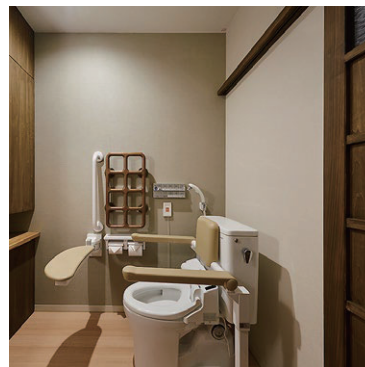
●外観



©ナカサアンドパートナーズ

東側から施設全体を見る

●①布施屋1階  
デイサービス



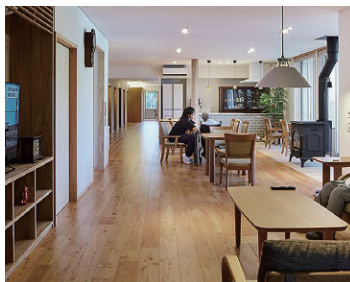
①車椅子でも使い易い配置のトイレは3種類の手摺で自立を促す



①雨の掛かりにくい縁側の板壁

撮影者：現代計画

●②布施屋2階  
ショートステイ



②2階の食堂兼機能訓練コーナー



②デイサービス～中庭はバリアフリーで出入り自由



②玄関土間のかまどでご飯の炊き方を習う

📄 事業概要

●①布施屋1階	デイサービス：定員20人
●②布施屋2階	ショートステイ：定員20人
●③いきいき工房	機能訓練ホール
●④よろず屋	居宅介護支援事業所 ヘルパーステーション
●⑤cafeひまわり畑	地域コミュニティカフェ

🌸 補助

- 平成27年度長野県木造公共施設整備事業
- 長野県地域主導型自然エネルギー創出支援事業

🏠 建築概要

階数	①地上2階／②～④平屋
地域制限	その他の地域
防耐火種別	①準耐火建築物／②～④その他の建築物
敷地面積	2,774.86㎡
延床面積	①～④1,098.37㎡ ①838.64㎡ ②82.65㎡ ③77.50㎡ ④99.58㎡
構造種別	木造（軸組工法）
設計・監理	合同会社わくわくデザイン
施工	株式会社カネモト
アドバイザー	ケア・プロデュースRX組
工事工期	2015年8月～2016年5月

写真撮影：株式会社ナカサアンドパートナーズ・現代計画研究所



● ㉔ いきいき工房



㉔地元カラマツ材を使用した、いきいき工房は地域に開放したホールとなっている

● ㉕ cafe ひまわり畑

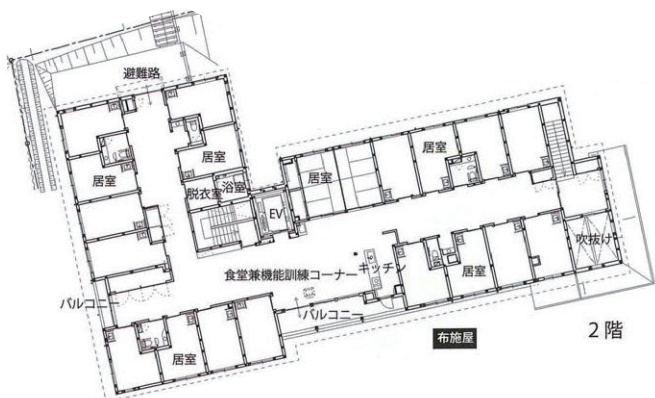


㉕就労支援 B 型事業所の作業所となっている

● ㉖ よろず屋



㉖相談室にはヘルパーなどの専門職が常駐している







### 🌳 森林組合を活かした木材の調達

全棟合わせて県産材を75%使用しています。木材の調達は設計段階から取り組み、木を卸している材木屋が限られているため、森林組合を通して材木屋に財産区（山林などを持つ特別地方公共団体）から木材を購入してもらいました。

施設東側の地域の通りぬけ道路から全体を見る



①1階の食堂兼機能訓練室②と畳の静養コーナー

### 🌳 準耐火建築物の設計手法

2階建ての布施屋は柱や梁を被覆して準耐火建築物とし、そのうち一部を燃えしろ設計とすることで、木造らしい落ち着いた空間となっています。



布施屋、いきいき工房、よろず屋まで雨でも傘をささずに移動できる

### 🌳 木に囲まれた中庭

屋外の柱、庇、渡り廊下、縁側など中庭を囲む空間にも積極的に木を使っています。利用者が手作りしたベンチや花壇が並び、利用者の自由な活動を支援しています。

### 🏠 施設概要

高齢になっても、認知症になっても、障がいがあっても、住み慣れた地域・自宅暮らし続けることを支える拠点づくりを目指しています。

立ち寄りやすい立地で、いつも賑やかに人々が入り出し、四季の中で暮らしにまつわる楽しい作業を行うことをコンセプトに、施設の利用者だけでなく地域の人も一緒に作業する中で信頼関係を築き、互いに助け合う地域サロンのような福祉施設を計画しました。

### 💡 景観への配慮

蔵など周囲の建物と色合いを揃えるだけでなく、1棟1棟のボリュームを抑え、勾配にも配慮しつつ、昔ながらの屋根形状とすることで周辺の景観と調和が保たれています。



周辺の建物と大きさや外観を合わせて景観を保護する





①1階の食堂兼機能訓練室①

### 🌳 食堂・キッチンの木質化

フローリングや木製の建具、壁際に置かれた水屋箆筒が懐かしい雰囲気をつくっています。アイランド型キッチンの高さを抑えることで、利用者は座って調理ができます。



①浴室の床には濡れても滑りづらい十和田石を使用している

### 🌳 浴室の木質化

浴室には信楽焼と青森ヒバの2つの浴槽があり、香りと肌触りが心地いいものとなっています。椅子と浴槽の高さを揃える、浴槽のくぼみをつくるなど、自力で入浴できるように配慮しています。



①1階の食堂兼機能訓練室①のフローリング

①1階の介護看護室のフローリング  
撮影者：現代計画(左2点)

### 🌳 床に木材を利用する工夫

フローリングには主に佐久市春日地区のカラマツ無垢材を使用しています。強度にばらつきのある材であったことや、配膳用キャスターのタイヤがウレタンでなかったことで、一部の床に目立ちやすい傷が付いていたため、ガラス塗装を施し、保護しています。



①1階のパウダールームから廊下を見る

### 🌳 木製の目隠し

脱衣所の隣に設けられたパウダールームと廊下は、気配が感じられるように木製ルーバーで緩やかに仕切っています。



### 運営者・現場で働くスタッフ・設計者の声

- ・ワゴンなどの備品を購入する際、床に木を張っていることを考慮せずに選んでしまったため、スタッフ全員が鉄筋コンクリート造と木造の違いを理解しておく必要があります。[運営者]
- ・地域密着型の施設は、以前に比べて木造が当たり前になってきたように感じられます。[設計者]
- ・木造の建築物において遮音性の確保は課題となりやすいため、木造で設計し始める際に建築主に対して、音が伝わるかもしれないということを伝えるようにしています。[設計者]